

がたモニタリング

第7号

2012年8月10日発行

認定 NPO 法人生態工房

167-0054 杉並区松庵 3-38-14-2D

03-3331-5004 (電話 / ファックス)

がたモニとは？

がたモニは、江戸前・三枚洲の干潟を守る市民参加の楽しい活動です。干潟の生きもののモニタリング（定期調査）、生きもののすみかを守る野外作業、干潟の生きものを知る観察会などを通して、三枚洲の自然に親しみ、未来へと伝えていきます。

三枚洲を知っていますか？

東京湾の豊かな自然を回復させるために整備された東なぎさ、西なぎさの人工干潟は、東京湾で残り少ない干潟として、大切な生物のすみかになっています。その沖合にひろがる自然の干潟・浅瀬が『三枚洲』です。干潟の沖合への張り出しは、1.5kmにも及び、湾内で最大規模。荒川と江戸川が注ぎ込み、貝類、魚類などの産卵・生息地としてさまざまな生きものを育てています。日本に渡来するスズガモの約3割、20,000羽が越冬するほか、キョウジョシギなど多数のシギ・チドリ類が生息しています。三枚洲は「東京湾の干潟・浅瀬」として環境省「日本の重要湿地500」に選定されています。



がたモニレポート

干潟の調査と保全 2012年4月19日実施

認定NPO法人自然環境復元協会のレンジャーズプロジェクトの皆さんが干潟の調査と保全活動に参加してくださいました。レンジャーズプロジェクトは、東京近郊の様々なフィールドに出向き保全活動を行っています。

3月に実施する予定が雨で4月にずれ込みましたが、それでも10名近くの方が参加してくださいました。干潟の保全の考え方や、今の課題点などをご説明し、干潟の生きものの調査も行いました。

胴長を着るのがはじめてという方が多く、少し驚かれたようですが、作業の中盤からはどんどんスピードアップして、予定の範囲を刈り終わっても、まだ時間を延長する熱心な方もいらっしゃいました。



干潟図鑑◎干潟ってなんだろう-つくりとはたらき

さまざまな生きものを育む「干潟」そのものに注目して、見てみましょう。

干潟とは、細かい砂や泥が積もってできている潮間帯のことを指す言葉です。潮が満ちた状態では海の底になり、潮が引くと陸になるという特殊な環境であり、「陸と海が連続している」ことが大きな特徴になっています。

傾斜が緩やかなので、陸と海とは穏やかにつながっています。自然の海岸線には干潟の陸にヨシ原が、海の中にはアマモ場ができる場合が多いです。

干潟は潮が満ちて海底になっても水深がごく浅いので太陽光が届き、潮が引いて陸地になるたびに空気に触れて光合成が進みます。

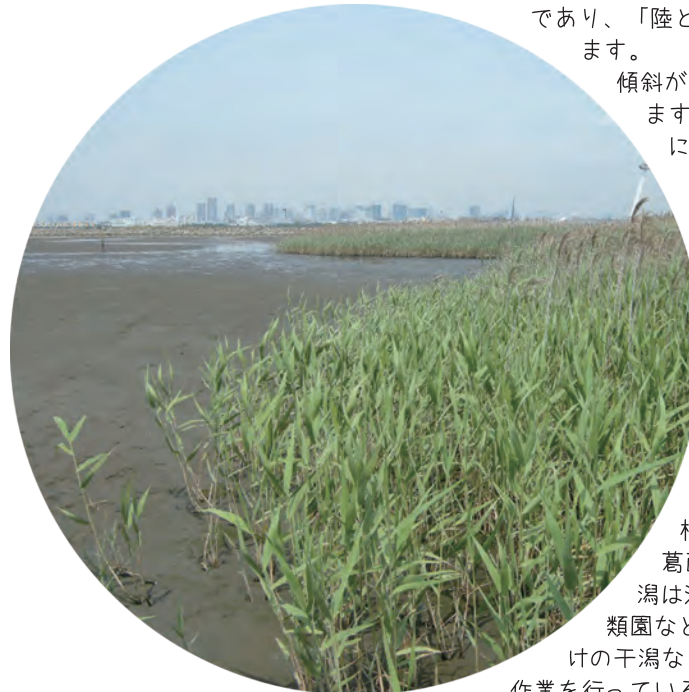
植物プランクトンが増えやすいうえに、川や海からの栄養素も多いので、これらをエサとする貝類やカニ、ゴカイの仲間が増えます。

すると、貝類やカニ、ゴカイの仲間をエサとする鳥や魚などが干潟に集まります。

干潟は潮位や底土の細かい違いによって生物の分布が異なるので、泥だらけの場所から、たまにしか水が引かない所、ヨシ原やアマモ場などの多様な環境があることが重要です。

葛西臨海公園は埋め立てでできているので、本来の干潟は海側の一部分しか残っていませんが、東なぎさや鳥類園などでは、人工的に干潟の陸側にあるヨシ原や泥だらけの干潟などを作り出し、多様な生物が生息できる環境の保全作業を行っているのです。

庭野裕（東京都立大崎高等学校教諭）



イベントカレンダー

2012年9～2013年3月

■申し込み

申し込みは不要です。当日集合場所にお越し下さい。行事傷害保険に加入のため、集合時に名簿へお名前や住所をご記入いただきます。参加費は当日お持ちください。

■問い合わせ：認定NPO法人生態工房 がたもニ係

〒167-0054 杉並区松庵3-38-14-2D

e-mail : info@eco-works.gr.jp 電話・ファクス : 03-3331-5004

HP : http://www.eco-works.gr.jp/

生態工房 検索

●干潟の野鳥観察会

葛西のバードウォッチングは、越冬にやってくる水鳥や小鳥たちと、それらをねらう猛禽類が豊富に見られる秋から春がベストシーズン。浜辺をゆっくり歩きながら、案内人と一緒に野鳥を探しましょう。

定員：25人／参加費：300円 雨天中止

場所：葛西臨海公園 西なぎさ案内所前（葛西渚橋を渡ったところ）

持ち物：あれば双眼鏡（望遠鏡を用意しています。なくても大丈夫）

案内：鈴木茂也（三浦半島自然保護の会）

晩秋編-高く澄んだ空に舞う猛禽やスズガモの大群たちを観察しましょう。

●11/17(土) 10:00～12:00

沖合には万を超すスズガモの群れ。ノスリ、ハイタカなどの猛禽類にも期待しましょう。



早春編-春霞の水辺で鳥を観察しましょう。

●3/20(水・祝日) 10:00～12:00

鮮やかな夏羽に変わったコリカモメやカンムリカイツブリ、渡ってきたばかりのコチドリに会えるかも。



●干潟再生モニタリング

鳥類園下の池で2年にわたって干潟を再生する活動をおこなってきました。この活動を通じ、干潟再生の成果と課題がはっきりしてきました。

そこで、古くなったヨシの根を取り除くエリアと根をそのままにするエリアの両方を設け、生きものや土の様子をモニタリングします。

この日は、まずはヨシの根を取り除く実験区と、現状のままにする対象区を設置します。また、初回となる当日の生きものの生息状況や土の様子をモニタリングし、次回以降、それらがどのように変化をしたか観察します。

●日時：11/17(土) 13:30～16:00 定員：20人／参加費：無料 雨天中止

集合：葛西臨海公園鳥類園ウォッチングセンター

持ち物：帽子、長靴、泥が付いてもいい服、あれば軍手。

●干潟の調査と保全-シギが来る干潟づくりと生きもの調査 干潟の復元活動の成果をしらべましょう。

ヨシの刈り取りをして、底生生物の生息状況の変化を調査します。

●日時：9/15(土) 9:30～12:00

定員：各回25人／参加費：無料 雨天中止

集合：葛西臨海公園鳥類園ウォッチングセンター 持ち物：帽子、長靴、泥が付いてもいい服、あれば軍手、鎌。10名以上で参加される場合は道具の準備の都合上、事前にご連絡下さい。

鳥類園の下の池の中には、長い間十分な手入れがされなかったため、古いヨシが密生し、水の流れが悪く、生きものが棲みにくい場所があります。そこで、古いヨシ原を切り開き、水の流れをつくったり、ヨシを刈り払って更新し、生きものが棲める干潟づくりを進めています。

この活動に、少しずつ成果が現れています。腐食が溜まって強いメタン臭がした干潟も、空気にさらされたり、水の流れが改善されて、土の色が変わってきました。それにつれて、これまであまり見られなかった、ゴカイの仲間たちが観察されるようになっていきます。

今年は、干潟の復元作業にあわせて、生きものの生息状況を調査し、成果を活動に役立てます。

きれいな干潟に棲むヤマトオサガニやトビハゼが確認されるようになると、ヨシ原が棲みやすくなっている証拠。生きもの環境を守るため、ヨシ刈り作業と調査に参加しませんか？

